

【生薬名】川芎 *CNIDIUM RHIZOMA*

【起源植物】センキュウ *Cnidium officinale*



【科名】セリ科 *Umbelliferae*

【別名】芎藭、日本産は日芎と呼ばれる

【薬用部分】根茎

【主成分】精油(リグスティライド、プナルフライト)

【薬性】気味は辛温、帰経は肝胆心包に属す

【効能】●活血行気・祛風止痛

- 鎮痙、鎮静、降圧、血管拡張、抗菌の作用がある
- 特に風寒などの頭痛・偏頭痛に多用する、処方に川芎茶調散
- 月経不順などの各種婦人病の常用生薬である
- 活血薬に分類され血於を改善する
- 血液凝固を抑制させる
- 煎液はとくに末梢血管を拡張し血流量を増加する
- 痺症といひ肢体関節の疼痛やしびれ、手足の麻痺にも使う
- 1日3～5gを煎服する、通常は少量を使い、量が多いと嘔吐やめまいを起こすことがある

【出典】●治中風入脳頭痛寒痺筋攣緩急金創婦人血閉無子(神農本草経上品)
●療微瘡、下疳、便毒、久瘀血、結毒、諸瘡、疥癬、癰疽、排膿、眼疾、結毒頭痛、腰脚軟弱、手足筋攣、膿淋、血淋、婦人血閉、胎衣不下、難産腹痛、催生、一切微毒、結滯、周身筋骨疼痛、諸患皆治、破宿血、活新血。
(一本堂薬選)

【備考】●現行の局方は国内産のセンキュウを起源植物に指定している
●中国産*Ligusticum chaunxiong*とされ日本産とは植物が異なる
●園芸では川芎末を水で溶いて松の木の根本にまくと元気になる
●本当の生薬名は芎藭であるが流通品の多くは四川省産のもので品質も良いので川芎と呼ばれるようになった

【処方例】●四物湯、川芎茶調散、当帰芍薬散など